

(- 1) 為替制度の概要と採用国

(99年 1月 1日現在)

	制度の概要	アンカー等	主な採用国	国数
ペッグ制 (単一通貨)	単一通貨にペッグ。レートの変更は頻繁には行わない。	米ドル	アルゼンチン、マレーシア、香港、バハマ、バルバドス、イラク、リトアニア、オマーン、パナマ等	23
		(ユーロ圏)	オーストリア、ベルギー、フィンランド、フランス、ドイツ、アイルランド、イタリア、ルクセンブルク、オランダ	11
		ユーロ	サンマリノ、カーボ・ベルデ	2
		仏フラン (C F Aフラン圏)	カメルーン、コンゴ、コートジボアール、等	15
		独マルク	ブルガリア、エストニア、ボスニア・ヘルツェゴビナ	3
		その他単一通貨	南アフリカ・ランド： レソト、ナミビア、スワジランド インド・ルピヤ：ネパール、ブータン シンガポール・ドル：ブルネイ オーストラリア・ドル：キリバス	7
ペッグ制 (通貨バスケット)	經常・資本取引相手国の通貨により構成される通貨バスケットにペッグ。構成通貨のウェイトは、經常・資本取引の地域別シェアが反映されており、国ごとに異なる。また S D R や E C U のように単位通貨化されたものもある。	S D R (ユーロ、日本円、英ポンド、米ドル)	ミャンマー、ヨルダン、ラトビア、リビア	4
		その他通貨バスケット	バングラデシュ、ボツワナ、ブルンジ、サイプラス、フィジー(オーストラリア・ドル、日本円、NZドル、英ポンド、米ドル)、アイスランド(ユーロ、加ドル、日本円、ルウェー・加・ネ、英ポンド、スウェーデン・加・ネ、スイス・フラン、米ドル)、クウェート、マルタ(英ポンド、米ドル、ECU)、モロッコ、サモア、セイシェル、トンガ、バヌアツ	13
単一通貨に対し弾力性を制限する制度	単一通貨に事実上ペッグした水準に一定の変動幅を持たせ、その範囲内にレートを維持。	S D R	サウジアラビア、アラブ首長国連邦、バーレーン、カタール	4
地域間協定により弾力性を制限する制度	特定の地域内で互いに為替レートを固定し、域外の通貨に対しては変動。	E R M 2	ギリシア、デンマーク	2
管理フロート制	中銀は公示レートの維持に努めるが、国際収支、外貨準備、等の状況によりレートを頻繁に変更。通貨バスケットに対する管理フロート制を採用している国もある。		中国、シンガポール、チリ(米ドル、独マルク、日本円)、ベネズエラ、チェコ、ハンガリー(ユーロ、米ドル)、ポーランド、ロシア、イスラエル(独マルク、仏フラン、日本円、英ポンド、米ドル)等	54
独立フロート制	市場によりレートが決定される。目標相場はなく、介入はレートの変動を緩和する目的で行われる。		タイ、インドネシア、韓国、フィリピン、ブラジル、ペルー、インド、メキシコ、南アフリカ、日本、米国、イギリス、オーストラリア、カナダ、スイス、スウェーデン、等	47

(注) 「主な採用国」の欄における括弧内通貨は採用国の為替制度における通貨バスケットの構成通貨を表す。

(出所) 国際通貨基金資料

(- 2) 欧州通貨統合等の変遷

年月	欧州通貨統合の動き	EC・欧州市場統合の動向	国際通貨体制の動向等
1944			7月 プレトン・ウッズ会議 12月 「国際通貨基金協定」効力発生
1952		7月 ECSC (欧州石炭鉄鋼共同体) 発足	
1958		1月 EEC (欧州経済共同体)・EURATOM (欧州原子力共同体) 発足	
1967		7月 EC (欧州共同体) 成立 < ECSC・EEC・EURATOMの機構統合 >	
1968		8月 関税同盟完成 (域内関税の撤廃・域外関税の共通化) 未頃 共通農業政策の完成 (共通価格の設定と支持)	
1969	12月 ハーグ首脳会議 (経済・通貨統合、ECの拡大に合意)		
1970	10月 「ウェルナー・レポート」 (経済・通貨統合に関する初の本格的報告書) 発表 ・71年から10年間で域内為替変動幅をゼロに。 ・資本移動の完全自由化と金融市場の統合を実現。		
1971			8月 ニクソン・ショック 12月 スミソニアン合意
1972	4月 バーゼル協定合意 <スネーク制度 (EC域内通貨間の変動幅をスミソニアン合意よりも小さい上下1.125%に固定) 発足 >		

1973	<p>3月 共同フロート制（対米ドルではフロートするものの、域内通貨の変動幅は維持）に移行</p> <p>4月 欧州通貨協力基金設立（欧州中央銀行が創設されるまでのEC域内における通貨協力のための機関、EC諸国間の債権債務を集中し決済を行う、事務は国際決済銀行が代行）</p>	<p>1月 英・アイルランド・デンマークのEC加盟</p>	<p>主要国の変動相場制への移行</p> <p>第1次オイル・ショック</p>
1974			<p>6月 IMF 20ヶ国委員会が「国際通貨制度改革概要」報告を採択</p>
1978	<p>12月 EC首脳会議にてEMS（欧州通貨制度）創設の決議採択</p>		
1979	<p>3月 EMS発足 <西独、仏、ベネルクス、伊、デンマーク></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各国通貨間で基準相場の設定、無制限の介入義務（ERM） ・ECU（欧州通貨単位：バスケット方式の通貨単位）導入 		<p>第2次オイル・ショック</p>
1981		<p>1月 ギリシャのEC加盟</p>	
1985		<p>6月 「欧州市場統合白書」発表（92年末までの域内市場統合を目指し撤廃されるべき障害を列挙）</p>	<p>9月 プラザ合意</p>
1986		<p>1月 スペイン・ポルトガルのEC加盟</p>	
1987			<p>2月 ルーブル合意</p>

		7月 「単一欧州議定書」発効（域内市場統合を92年末までに完成、特定多数決の導入）	
1989	4月 「ドロール・レポート」発表（ウェルナー・レポート、EMSに続く3回目の通貨統合案） ・3段階のステップによるEMU（欧州通貨同盟）の創設を提唱		
1990	7月 EMU第1段階開始（政策協調の強化） 10月 英、ERM（EMSの為替相場メカニズム）に参加	10月 ドイツ統一	
1991		12月 マーストリヒト欧州理事会（欧州連合条約に合意）	
1992	9月 第1次欧州通貨危機（英・伊、ERMを離脱）	2月 欧州連合条約（マーストリヒト条約）調印	
1993	8月 第2次欧州通貨危機（ERMの変動幅拡大）	11月 欧州連合条約発効	
1994	1月 EMU第2段階開始 EMI（欧州通貨機構）設立	1月 EEA（欧州経済地域）発足	12月 メキシコ危機発生
1995	12月 マドリード欧州理事会にてEMIレポート「単一通貨への移行」採択、単一通貨の名称が「ユーロ」に決定 ・単一通貨移行のスケジュールを提案 ・単一通貨導入の原則として導入完了まで2通貨（単一通貨と各国通貨）の併存を認める	1月 スウェーデン、オーストリア、フィンランドのEU加盟	

1996	11月 伊、ERM再加盟		
1997		6月 アムステルダム欧州理事会、安定・成長協定に関する決議、及び、ERM に関する決議を採択 10月 アムステルダム条約調印	7月 アジア通貨危機発生（タイ）
1998	5月 単一通貨第1次参加国決定 <ベルギー、独、スペイン、仏、アイルランド、伊、ルクセンブルグ、オランダ、オーストリア、ポルトガル、フィンランドの11ヶ国> 単一通貨参加国通貨間の固定交換比率発表 6月 欧州中央銀行（ECB）設立		
1999	1月 EMU第3段階開始 非現金取引についてユーロの導入開始（各国通貨と併存） ユーロと単一通貨参加国通貨間の固定交換比率の決定 ECBによる金融政策の実施 ERM 開始（デンマーク、ギリシャ加盟）		
< 予定 >			
2002	1月 ユーロの紙幣及び硬貨の流通開始 単一通貨参加国通貨の回収開始（遅くとも同年6月末までに完了） 7月 単一通貨参加国通貨の法的地位の消滅、ユーロが唯一の法定通貨として流通		

(- 3) 国際通貨体制の変遷

年	出来事
	ポンドを中心とする国際金本位制の確立
1816	英国で金平価の法定化 (1金オンス = 3ポンド17シリング10.5ペンス : 1717年より事実上行われていたもの)
1844	イングランド銀行の銀行券発行高を金準備量により制限 (ピール条例) 以後、各国で金本位制が広まる : 独 (1873年)、仏 (1876年)、米 (1879年)、日・露 (1897年)
1914	第1次世界大戦勃発 = 国際金本位制の停止
	国際金本位制 (国際金為替本位制) への復帰
1919	米国が金本位制に復帰
1922	ジェノア国際通貨金融会議 : 金以外の流動資産も準備として保持できるようにする。
1925	英国、旧平価で金本位制に復帰
1928	仏、金本位制を採用 他の国も金本位制に復帰 (日本は1930年に復帰) ただし、ほとんどの国は金為替本位制として復帰 : 国際通貨として金その他、金本位制を採る国の通貨を使用。
	国際金本位制 (国際金為替本位制) の崩壊
1931	英国が金本位制を停止。この前後に35ヶ国が金本位より離脱 (多くの国はポンドに対し為替相場を安定させつつ、ドル及びフランに対して変動 ; 旧大英帝国領地域、スカンジナビア諸国、ポルトガル、エジプト等)
1933	米国、事実上金兌換を停止 (1934年には金平価切下げ : 1オンス = 35ドル)
1936	仏、金本位制離脱、他の金ブロック諸国 (伊、ベルギー、オランダ、スイス等) も離脱 為替切下げ競争
1939	第2次世界大戦

